

政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名：人口減少・地域消滅の時代の自治体病院
- (2) 参加者：公明党彦根市議団（上杉正敏・中野正剛）
- (3) 日時・場所：令和4年4月20日（水） 14:00～16:30
リファレンス駅東ビル（博多）

【1. 研修目的】

医師不足に悩んでいる彦根市がどうすれば医師・看護師の勤務する地域になるのかを学ぶ。

【2. 結果報告】

(1) 内容

我が国は2025年に向けて急激に社会変化が進む。都市部では後期高齢者の急増による医療・介護資源の不足、地方では人口の急減により自治体の消滅が相次ぐことが予想される。

なぜ日本の合計特殊出生率が低いのか、その原因には次の3つがある。

- ① 非正規雇用など若年層の雇用不安
- ② 女性の晩婚化と出生数の減少
- ③ 若年層の東京圏への移住傾向

このような中、地域存続のために絶対必要なことは、医療介護人材をいかに集めるかと、医師不足問題をいかに解決するかである。

医師に関しては、女性医師の数が年々増加してきており、また、少ない医師で多くの仕事をこなさなければならず、日本の医師の労働環境は劣悪な状態になっている。また、女性を地域にとどめようとする、正規雇用の場を整備しないと都市部に移住されてしまう。

これらの点から考えると、高齢者が増加する今後30年は医療と看護・介護は絶対に必要なものなので、これを産業と捉えて、いまだに男性目線の病院を女性医師や女性看護師が快適に使用できるように変えていくと共に、看護師を正規雇用の受け皿にして、地元への定着を図る必要がある。

(2) 考察

今回の研修は、彦根市議会参加者だけの研修になり、彦根市に特化して城西大学の伊関教授から教えを受けた。

彦根市の規模では医師の充実を図ろうとしても、なかなか大学から医師を派遣してもらえず、苦勞していることは理解できる。また、彦根市立病院の各課の医師の数を見ると、彦根市の医療体制は内科が充実しているが、外科に関しては他の病院に頼る体制になっていると思われる。しかし、彦根市の規模ではあらゆる医師を彦根市立病院で賄うのは

不可能で、長浜市や他市町の病院と連携して医療体制の充実を図っていく必要がある
ので、その視点から見ればしっかりとした体制ができているとの事だった。

また、病床数に関しては使われていない病床があるので、そこを利用して富山市のあさ
ひ総合病院の例のように病床数を減らしてでも、病院で勤務する医師・看護師の労働環
境の質を向上させ、医師と看護師の定着を図り、安心して暮らせる彦根市にすることが
彦根市の人口減少を防ぐことにつながり、さらに医療・介護関係での正規雇用化を進め
ることが今後30年、医療・看護・介護を産業として見る事が、彦根市の発展に寄与す
るとの事だった。

この件に関しては今後さらに研鑽を重ねていきたい。